

10番（吉川里己君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、私、吉川の一般質問をさせていただきます。

まず、質問に先立ちまして、この4月の合併選挙におきまして市民の皆様の圧倒的な御支持を得て市長に初当選をされました樋渡市長に対しまして、まずは祝意と敬意をあらわしたいというふうに思います。

全国最年少市長として連日テレビ、ラジオ、あるいは新聞等のマスコミにおいて報道され、本当にうれしい限りでございます。これからはぜひ息切れをしないように、市民のために、武雄市のPRのために連綿と続くことを期待するところでございます。どうぞよろしく願いをいたします。

それでは、質問に移りたいというふうに思います。

これからますます少子・高齢化が進み、さらには景気の低迷、雇用不安が残る中で、制度面の一大改革が行われている昨今でございますが、市長は今回選挙で市内をつぶさに回られ、市内の実情を体感されたことと思っておりますが、これからの任期の4年間、極めて難しい時代背景の中で数多くの課題にどのように対処し、市民の負託にこたえられようとしているのか、お伺いをしたいというふうに思います。

まず、第1点目に地域振興についてお伺いをいたします。

今回の選挙におきまして、私も各地域をくまなく回り、そこで多くの市民の皆様から直接貴重な御意見を拝聴し、また、地域の実情をつぶさに見てきたところでございます。その中で特に感じたことは、総じて停滞から衰退ぎみに移る側面が多々見られるということでございます。商店街の不振、インフラ整備のおくれ、少子・高齢化の急ピッチな進展等、空き家の増加など年を追うごとに進んでいることがあります。その要因としては、雇用の場が少ないことによって地域内で若者の定着が見られず、同時にお年寄りだけの世帯がふえてきたということでもあります。基本的に魅力のないところには人は集まらないし、残らないわけがあります。何といたっても経済活動にあると思うわけがあります。これまでのように手をこまねていれば、人口減少と所得格差の面で厳しい状況が続くことが懸念をされます。

そこで、本市の地域振興について、今後発展を図る観点から中・長期的視点に立ち、既存産業のさらなる振興を図るとともに、新たな産業の集積を図るなど新しい活力を生むべく地域振興を市長はどのように考えられておられるのか、お伺いをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私は、さきの選挙でまちづくりの具約として42項目を既に出しております。できるものから粛々と着実に一生懸命やっていきたいというふうに思っております。その中で3点申し上げ

げたいと思います。

一つは、企業誘致、あるいは既存産業の集積を含むまちのにぎわいをまず取り戻していき
たいというふうに思っております。まずにぎわいでありませう。

2点目であります。観光にもう一回目を向けたいと思います。今般、合併を伴って山内町
が旧武雄市と一緒になつた、観光の魅力はかなり増したというふうに思っております。観光
面に私は力を入れていきたいと思ひます。

3点目でございます。3点目は私自身であります。私自身がこの武雄ブランドを一生懸命
皆さんとともにつくつて、それで全国にトップセールスをしていきたいというふうに考へて
おります。外に開かれた武雄、あるいは副市長制を導入いたしましたので、そこは責任分担、
あるいは役割分担を果たしながら一生懸命していきたいというふうに考へております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里巳君）〔登壇〕

今回の選挙戦を通じて発行されました具約の42を通じてやっけていくんだと。具体的には重
点課題として企業誘致、そして、既存産業等のにぎわいを持たせる、観光に力を入れていく、
武雄のブランドを構築して全国に発信をしていくというふうなことであります。

これまでの工業社会の中では、やはり企業誘致が地方の活性化の切り札であったわけであ
りますけれども、もう一つ、脱工業社会の中での切り札としては、やはり今度は人の誘致に
なつてくるのではないかなというふうに思うところでございます。企業も人もやはり誘致を
するには、その地域にどれだけの、市長が言われるにぎわいを持たせるのか、私の言い方と
してはどれだけ地域にときめきがあるかということが決め手ではないかなというふうに思う
わけでありませう。行政に一番今求められるのは、武雄市のビジョンをはっきりさせて、まず
第1はトップセールス、そして、人脈のネットワークを築いていくことが最優先ではないか
なというふうに思うわけでありませう。

先日、医学博士の服部幸應先生と懇談をする機会があつたわけでありませうけれども、服部
先生は現在、栄養専門学校理事長、校長として活躍をされております。そしてまた、食育
を通じてテレビやラジオで活躍をされておる方で、樋渡市長とは以前から大の友人であつた
というふうにおっしゃつておりました。近年、殺傷事件などキレる子供たちの犯罪が社会問
題化をしておるわけでありませうけれども、ある調査によりますと、いつもいららしている
中学生の数が全体の38%、そして、その予備軍である小学生が12%、全体の約9割の子供た
ちがたまにいららするという結果が出ておるわけでありませう。その原因の一つには、やは
り食生活の変化があるというふうに言われておるまして、体だけでなく精神的にも、心にも
深刻な影響を与えてきておるようでありませう。

そのような状況の中で、武雄の基幹産業であります農業や観光の一つの起爆剤として、また、子供たちの肉体的、精神的な構造をつくる食について服部先生のお力をかりれば、食育と地域振興の両面から効果を上げることができるのではないかというふうに考えるわけであり、前回、服部先生とお会いしてそういうことを痛感したわけであり、市長もこのアドバイザー制を登用していきたいということで、具約42の方にもうたわれております。このアドバイザー制をどのように今後具体化されていくつもりなのか、お伺いをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

市政アドバイザーにつきましては、先ほど御指摘がありましたように具約の42に掲げております。私は今のところ、お二方を想定しております。その一人が先ほどお話が出ました服部幸應先生であります。もう一方は、ちょっと今人選中であり、農業、とりわけ野菜の全国的な専門家にぜひ来ていただきたいというふうに思っております。いずれにいたしましても、このお二方につきましては相手のある話でありますので、これから交渉を始めますけれども、今のところそのように考えております。

特に服部幸應先生に関して言えば、私が趣味が料理だということを服部先生との会議のときに申し上げたところ、非常に気に入っていただいて、そこから食育の大切さであったりとか、あるいは子供と親の関係であったりとか、さまざまなことを直接教えていただく間柄になりました。きっかけは何が幸いするかわかりません。これを今回、私とのつながりではなくて、さらに武雄市民とのつながりまで持っていきたいなというふうに考えております。まとめ次第、市政アドバイザーということで私は予算を計上し、皆様方とよく相談をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里已君）〔登壇〕

服部先生ともう一方、人選中だということでありますけれども、やはり食といったものは生命の源であります。そしてまた、地域においては産業と密接に関係があるわけであり、そしてまた、昨年の6月、国会の方で通りましたけれども、食育基本法が制定をされております。自治体もその責務を負っておるわけであり、ぜひ地域の皆さん、住民の皆さんの視点で地域にときめきを与えるような政策立案をぜひお願いするところでございます。よろしくお願いをいたします。

次に、弾力性ある財源を求めての質問であります。

さきの上野議員の御質問の中でも浄化槽の設置とか、エレベーターの設置とか、そういったもろもろの投資の要求がこれからどんどんどんどんふえていくわけでありまして、そういう状況の中で、やはり財政構造の弾力化を図らなければそういう投資もできないわけでありまして。

この財政の弾力化を示す端的な指標といたしまして、経常収支比率がございまして、これは税収とかの経常収入に対します支出、人件費とか扶助費、あるいは公債費等の支出を割ったものでありますけれども、平成18年度の見込みではもう武雄では90%を超えておりまして、19年度が92%というふうになっておりまして、どういうことかといいますと、100%になると投資的経費がゼロになるということで、武雄市の場合も投資的経費の余裕のなさをこの数字があらわしておるわけでありまして。

また一方、公債費比率を御見ますと、これは交付税を含めた一般財源に対する公債費、要は借金払いの割合でありますけれども、平成18年度武雄市の状況を見てみますと、16.5%が見込まれております。これは合併のときに出していただいた資料なんですけれども、平成24年度以降は20%をずうっと超えていくという見込みがされております。警戒ラインと言われる15%をはるかに上回っております、今後も上昇していく傾向があるわけでありまして。

そして、もう一つは地方債現在高、これは平成13年度から臨時財政対策債というのを国の方が発行いたしました、対策を行っていったわけでありまして、それを踏まえてこの地方債もぐんぐん伸びておりまして、平成18年度の状況としては241億円、武雄市で地方債、借金を持っているということです。歳入総額から見ますと1.3倍、一般財源総額から見ますと1.7倍ということで、将来にわたる財政負担が大きくなっておるわけでありまして。

それともう1点の角度から見ますと、将来の財政需要に備える基金、貯金でございまして、その内訳を見てみますと、年度間の財源調整を行う財政調整基金、これが武雄市では今年度370,000千円、財政調整基金の中の25%の大幅な取り崩しをされております。そしてまた、公共施設整備基金、これが4億円、全体の20%ということで、いずれも厳しい台所事情がこの基金取り崩しに、今年だけじゃなくてここ数年続いております。

そういう状況の中で、これから社会資本整備を初めさまざまな事業、あるいは施策に取り組んでいかなければいけないわけでありまして、そういう状況の中で、やはり徹底した事務事業の見直しなど財政当局にとっては非常に厳しい正念場に差しかかっておるわけでありまして。まさに知恵と工夫の出どころという感がするわけでありまして。

これからの市政の課題に対して対応をしていくためには、安定的な財源確保をどのように図られていくのか、平成17年3月に閣議決定をされました行財政改革推進のための新たな指針策定に基づいて、今回、行財政改革推進本部会議を立ち上げられておりますけれども、その取り組みの内容と目標についてお尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

行政改革につきましては、合併の目的である非常に最も重要な課題として取り組んでいきたいと考えております。そういうことで、新市においては行政改革推進課を設けております。今年度内に武雄市行政改革大綱の集中改革プランを策定したいというふうに考えております。

それから、基本方針としては、行政経費の削減だけではなく、企業誘致、あるいはそういうことで新たな財源を生み出して市民のニーズにこたえ、質の高い行政サービスを目指したいというふうに考えております。

それから、庁内の推進体制でございますが、既に行政改革推進本部会議を設置しております。これは市長が本部長、それから副本部長に副市長ということで、本部の委員が各部長ということになっております。それから、そのほかに各課長によります推進部会、これが実際に行革を推進する部会でございます。それから、担当の幹事会と、そういうことで設置を既にしております。

それからもう1点は、市民の意見を反映させたいということで、これは議会が終了後、7月ぐらいに設置を予定しておりますが、武雄市行政改革市民会議を予定しております。メンバー的には学識経験者、あるいはいろんな団体の推薦、それから公募によっても委員を選定していきたいと。

それともう一つは、パブリックコメントの実施も考えております。

それから、議員お尋ねの目標としては人件費、物件費の行政経費の見直し、これは当然でございます。

それから、官民協働のまちづくりということで、民間活力の導入も考えております。

それから、当然市民の意見を反映させた事務事業の推進をやっていきたいということでございます。

それから、先ほど申し上げましたように、財源の確保のために企業誘致の推進等もやっていくということになるかと思えます。

それからもう一つは、先ほどからいろんな市民のニーズがっておりますけれども、質の高い行政サービスを提供するために歳入面の使用料、あるいは手数料の住民負担の適正化に努めたいということで考えております。

そういうことで改革を進めるに当たりましては、市長がいつも言っておりますが、スクラップ・アンド・ビルド方式をぜひ取り入れて行革の推進に努めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的な方針は先ほど部長答弁のとおりでありますけれども、私は1点、そこに加味したいというふうに思っております。それは財政の難しさであります。臨時財政、臨時、私が言い間違えるぐらいですから、臨財債であったりとか、あるいは地方交付税交付金、これには特交があったりとか、はっきり言って一般の市民、私も含めてようわからんことなっております。したがって、これを財政家計簿としてわかりやすく市民の皆さん方にまず提示をしていきたいというふうに思っております。

例えば、地方交付税交付金であれば、これは東京からの仕送りだと、使用目的については自由に使っていいといったりとか、さまざまな工夫を凝らしてこの家計簿をまずつくってきたい。これをあわせて先ほど部長から答弁があった集中改革プランに載せて、こういうふうになっているというのをわかりやすく具体的に私は示していきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里己君）〔登壇〕

行政改革推進本部会議の第1回目を立ち上げられたと。次は行政改革の市民会議ですか、これを7月に立ち上げていくというふうなことであります。

具体的な目標としては、先ほど出ましたけれども、やはり人件費とか物件費等の行政経費の見直しをするとか、あるいは使用料、手数料の適正化を図っていくというふうなことで進めていくということであります。

もうちょっと見てみますと、平成18年度の武雄市の一般会計予算の支出の部分からちょっと見てみますと、やはり一番多いのが人件費であります。40億円で、全体の21%を占めております。次が福祉関係に使われる扶助費、29億円、これが16%。3番目に多いのが公債費、これは借金の返済です。24億円、13%という、ワーストの方からいきますと三つあるわけありますけれども、やっぱり人件費がまだまだ一番多くかかっておるわけであります。地財計画の方でも定員の削減、あるいは事務事業の見直し、それから民間委託の推進というふうな方針が強く打ち出されておるところでございますけれども、やはりこの人件費のスリム化は行革において大きな比重を占めておるわけであります。

そういう状況の中で武雄市もいろんな改革に取り組まれておりますけれども、その中で公立保育所がございます。6カ所あったんですけれども、この民営化を含めた管理運営の基本計画及び実施計画を平成12年の9月に策定をされております。目標年次が平成20年ということで計画を打ち出されておまして、もう既に6年が経過をしておりますけれども、昨年、担当部の皆さんの努力によりまして、ようやく東西の川登保育所の民営化、統合が図られたわけであります。しかし、朝日保育所、それと朝日第二保育所、それと若木保育所、この三

つについては、あと目標年次まで2年しかございませんけれども、全く手がつけられていない、めどが立っていない状況にあるわけでありまして。やはり財政面から見ていきますと、保育所の運営費、国の基準に対して大幅な超過となっておりますわけでありまして。毎年約1億円近い赤字を出して、一般会計を圧迫していつておる状況にあるわけでありまして。そういう認識に立てば、もうそろそろ今後の公立保育所の統合、民営化の実行計画を早急に示して、地元の皆様にも示すべきだというふうに思うわけでありまして。

特に朝日町においては、約10年前から町民グラウンドをつくってほしいという建設の強い要望がございます。私も常々、保育所と町民グラウンド、そして、朝日小学校は三位一体のセットで考えて、同じロケーションの中で朝日町のコミュニティーをつくるべきだということと主張をしてきておるわけでありましてけれども、その町民グラウンドもございますので、今後どういう計画で保育所の統合、民営化を進められようとしておるのか、お伺いをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、朝日保育所、朝日第二保育所については1カ所に統合し、民営化することが基本的方針であります。統合保育所は新設と考えており、事業開始の時期は平成21年4月からとなるというふうに考えております。

ただ、それに至るまではさまざまな関係者との合意形成、あるいは用地取得等々がありますので、しかし、先ほど議員がお話しされたとおり、これは財政負担がおくれることによって伴うことにもなりますので、可能な限り早く、私は21年4月からやりたいというふうに思っております。その際に、私も先ほどありました朝日小学校、それと住民の皆さんが望んでおられるグラウンド、それとこの保育所については、私も3点セットだというふうに思っております。これによって事業の効果的な波及、あるいはできるだけ財政がそれで抑えられるという観点からも、私もそれにサインを出したいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里巳君）〔登壇〕

平成21年度4月ですか、開業を目指していただくということで明快な答弁をいただきましたありがとうございます。やはり財政的な観点から、自主財源を確保していくという観点、それと町民の皆さん、市民の皆様のニーズに合った取り組みを早急にやっていただきたいというふうに思うわけでありまして。

次に、市役所の常識を破る改革の中の職員の活性化についての質問でございますけれども、職員の採用においては、今までは大体定期採用をしてきておったわけでありましてけれども、

例えば、中途採用とか、あるいは5年の任期付きの採用を認めるとか、あるいは障害をお持ちの方、こういった方にその採用枠を広げるとか、やはりこれまでは新卒者をとっていたわけでありまして、なかなか見きわめることができないような状況にあったわけでありまして。行政、あるいは社会のニーズに合った実績を持った人材を確保する取り組みもそろそろ取り入れていっていいんじゃないかなというふうに思うわけでありまして。一度民間企業で体験をされた社会人の方が市役所に入る。そして、民間の感覚で仕事をさせていただくということは、職員の皆様にとっても大きな刺激になるのかというふうに思うわけでありまして。やはり人は刺激を受けないとなかなか成長をしていかないものでございまして。この職員の意識を覚せいするための仕掛けについて、市長の所見をお伺いしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今後の人事採用について私から答弁をいたします。

まず、私も基本的な線では先ほど議員がおっしゃった線とは同じであります。例えば、来年、まだ確定的な数字は言えませんけれども、2割から3割の方については全国公募をかけて、民間、あるいは自治体から公募をする、あるいは障害をお持ちの方を採用する、そういったことをその割合の中で私は考えていきたいというふうに思っております。ですので、新卒の方も私は大事だというふうに思っております。バランスのとれた雇用を目指していきたい。したがって、100%新卒採用というのは、私もこれからの行政、あるいはこれからのまちづくりを考えた上では余りなじむものではないというふうに思っておりますので、申し上げたとおり、そういったいろんな分野からバランスのとれた、しかも、地元採用、あるいは新卒採用も含めて私は採用していきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里巳君）〔登壇〕

ぜひ現行の制度とか、あるいは組織、このままで、本当に今までどおりでいいのかということ一度白紙に戻して、ぜひ行革、聖域に踏み込んで取り組みをしていただきたいというふうに思うところでございまして。

それでは、次に道路行政についてお尋ねをしたいというふうに思います。

本市の均衡ある発展と市民生活の向上を図るために、基本的な資本であります道路網の整備要望があるわけでありまして。私もかねがね道路が変われば地域が変わるというふうに考えております。国道498号、これは鹿島から武雄、伊万里を經由して佐世保に至る県西部地域の幹線道路でございまして。また、長崎自動車道、武雄北方インターへのアクセス道路としても非常に重要な路線というふうになっております。また、近くには国道34号がございまして、

この道路整備とも密接な関係がございます。

国道34号について申しますと、武雄北方インターから江北までの区間、これは県警本部の発表資料によりますと、平成16年の1年間で348件の交通事故が発生をしております。7名の方が死亡、544名が負傷をされております。この武雄市 - 北方町区間だけで大体約2日に1回交通事故が発生をしているというふうな状況をお聞きしております。

その整備状況をちょっと見てみますと、土木事務所の資料によりますと、北方区間で総延長4,631メートルございますけれども、歩道設置延長が3,450メートル、ですから、残り1,181メートル、1キロ近くが歩道なしの状況で、その沿線には家屋が張りついておりまして、既存の歩道設置もなかなか難しいということで、非常に危険な状況に陥っておるような状況でございます。

さらに平成11年度、これはちょっと古い資料でございますけれども、交通量調査が行われております。これでは1日当たりの交通量が2万4,470台ということで、1時間当たりには換算しますと1,200台、約3秒に1台の車が行き来しているという勘定です。特に朝夕の交通渋滞は皆さん方御承知のとおりでございます。この34号線の改良も含めて国道498号整備促進期成会においては、国の方に平成18年度予算要望をして、早ければ18年度着工できるんじゃないかというお話も伺っていたわけでありましてけれども、なかなか先が見えてこない。そういう状況の中で、武雄市の区間の現状と見通しについてお尋ねをしたいというふうに思います。

そしてまた、もう1点、市道506号石木線についてでございます。これは武雄中学校から甘久郵便局に通ずる路線でありますけれども、私も今回選挙戦を通じて、主要道路でありながら選挙カーも通れないような状況に、インフラ整備のおくれを痛感したところでございます。そしてまた、市民の皆様からも整備要望が一番多かった、一番強かった路線でございます。この路線は幅員が1.8メートルということで非常に狭く、見通しも悪い状況にあります。住宅も点在をして、生活道路であるとともに、通学路として毎日200数十名の生徒がそこを行き来しているということで、安全確保の面から、あるいは防災対策の面からも早急な改良拡幅が望まれております。私も議員になってから、6年前から要望をし続けておりますが、なかなか前に進まない、前進をしないわけでありまして。これまでの状況はどのようになっているのか、以上3路線について建設部長にお伺いをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げたいと思います。

国道498号につきましては、少し詳しく申し上げたいと思います。

この路線は県西部地域の幹線道路として位置づけられておりまして、中でも伊万里市境から国道34号までの区間は事業効果、利便性、施工性及び現道との関係を考慮しながら、これ

まで複数のルートを検討されております。国道498号の出口の方向は、九州横断自動車道武雄北方インターに向かう方向で、国道34号にタッチするというふうに聞いております。特に伊万里港で取り扱う貨物の主要な輸送路であること、大型車の交通量が増加していることから、道路整備につきましては、松浦バイパスから国道34号までの区間は距離が長いために一度に整備することは県の財政状況から困難であると。まずは若木工区の事業化を最優先して、県では考えていきたいと。

このようなことから、武雄土木事務所にお聞きしましたところ、若木工区につきましては、現在、事業着手に向けた準備がなされておりまして、本年度、伊万里市境から県道多久若木線までのルートを公表したいというふうに聞いております。しかし、これも事業採択に当たりましては、全国での採択の枠の関係ということで、県土木部としては楽観はできないというふうなお答えもいただいております。

市としましては、国道498号の整備が一日でも早くできるよう期成会等を通じて強力で働きかけをしていくというふうに考えている所存でございます。

次に、国道34号でございますが、国道34号の交通量は先ほど議員御指摘のとおり、朝夕のピーク時を初め非常に多く、緊急車両の通行にも支障を来しておりまして、健全な市民生活の確保に大きな影響を及ぼしております。

市としましても、市民生活の安全を図るため、佐賀西部地区開発推進に関する提案等により国、県に対し歩道未整備区間の整備実施の要望を行ってきたところでございます。現実におきましては、地元においても歩道の必要性は理解はされておりますが、沿線の地権者等々とは生活基盤への直接影響、そういったものがございまして、具体的な実施には至っておりません。このため、平成12年に国道34号バイパス建設促進期成会を設立されております。これは北方町、大町町、江北町3町で設立をされております。バイパス建設の事業化に向けての国への提案活動が実施をされております。この期成会と、それから佐賀地区合同期成会と年に2回の提案活動の実施を佐賀国道事務所、それから江北町、大町町、北方町コンサル合同での国道34号の現状把握、そういったものを行いまして、平成16年度より年6回の意見交換会をバイパス建設に伴う新たなまちづくりとして実施をされております。

ただ、この地域は国道34号とJR佐世保線、それから六角川が非常に接近をして並行に走っております。特に大町町では工場も接近しておりまして、道路づくりに非常に考慮すべき点が多く、路線選定が非常に難しく、いまだ路線選定まで至っておりません。そういうことから、国道34号バイパスにつきましては、武雄市としては国道498号との関連もございまして、早期事業に向けて地元の国会議員さんを初め、国への提案活動をさらに強力で推進していきたいというふうに思っております。

それから、最後になりますが、市道石木線の改良工事でございます。これは数年前より沿線の区からも強い要望がっております。通学路、生活道路としての必要性が非常に高いと

ということで、建設の方といたしましても、現地調査等をし、その認識は十分持っているところでございます。特に通学道路としては幅員が非常に狭くて、車両通行時は生徒があぜ道やのり下に避けるというようなところでございます。また、一部非常に見通しが悪いところがございます。大変御迷惑をかけておりますので、最も早く整備をしなければならない路線ではないかというふうに考えておるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里已君）〔登壇〕

国道498号、それから国道34号線の実情はよくわかりました。当初は498号は若木境と武雄インター境から、両方からしていただくというふうなことであったわけでありまして、やはりこの国道34号線との絡みがあってなかなか進んでいない状況がよくわかったわけでありまして、ぜひ一刻も早くそういった地形的な問題、いろんな難しい条件があると思っておりますけれども、整備促進に力を注いでいただきたいというふうに思うわけでありまして。

そして、特に中学校線、中学生が通る朝日町の甘久の石木線ですか、この点についてはやはり十分に御理解をいただいて、早く測量、それから用地買収等々に取りかかりをしていただきたいというふうなことで考えております。建設部長の方も最も整備しなければいけない区間だと認識はしているというふうなことでございますけれども、市長のお考えを、ぜひ建設的な意見を求めたいというふうに思います。よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

私ごとになりますけれども、武雄に帰ってきて以来、選挙期間で新市内くまなく回ったつもりであります。そのときに私がここは早急に直さないと生命にかかわる、あるいは通学路の問題になるといったところが七、八カ所、私が見た限りでもあります。その中に先ほど答弁がありましたけれども、石木線というのはその中の一つというふうに私も考えておりますので、そういった観点から優先度が高い道路改修という意味で私自身も積極的に推進をしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里已君）〔登壇〕

建設部長には大変失礼ですけれども、仏教の教えの中に「一隅を照らす」という言葉がございます。ぜひ日の当たらない地域、そういったところにこそ、行政、あるいは政治の温かい光を注ぐべきだというふうに日ごろから思っております。ぜひ予算措置をしていただきま

すよう強くお願いを申し上げます、私の質問を終わります。